

ウィーン大学東アジア研究所日本学科

マダドナーめぐみ（ウィーン大学）

megumi.maderdonner@univie.ac.at

1. 日本語教育の概要

日本学専攻の学士課程（3年間）の学生を対象とした、3年の必修コース。

および修士課程の学生対象の必修コース。

	コース名	使用教科書	時間数/週	ECTS	学生数
1年目	Theorie 1、2	新文化初級日本語 I, II	冬学期 6	21	それぞれ 約200人
	Praxis 1、2		夏学期 5		
	文法		6	24	
2年目	Theorie 3、4	文化初級日本語II	3	12	それぞれ 約100人
	Praxis 3、4	文化中級日本語I	3	12	
3年目	Theorie 5	文化中級日本語I	2	4	それぞれ 約60人
	Praxis 5	自主教材	2	4	
	新聞講読（冬学期）	新聞記事	2	4	
修士課程	理論日本語（夏学期）	自主教材	2	4	15～20人
	実用日本語（夏学期）	自主教材	2	4	
	新聞講読（冬学期）	新聞記事	2	4	

〈授業時間数（1時間は実質45分）〉

2. 授業

当研究所の日本語の授業は、オーストリア人教師がドイツ語で文法や文字について説明し、和文独訳をさせる「理論日本語」と、日本人教師が聞く・話す・読む・書くの4技能に渡って実用的な練習をさせる「実用日本語」の2つに大きく分かれています。

授業の中心となる教科書は、両者とも同じものを使用しているため、学生たちは、ドイツ語で説明を聞き翻訳をした後で、実用に向けての練習をするという流れになっている。

それぞれの学年での大きな目標は以下の通り。

1年目：身近なこと、具体的なことについて表現できる

2年目：抽象的なことが表現できる。与えられたテーマについて簡単な意見が言える。

3年目：自分で選んだテーマについてまとめ、意見が伝えられる。

修士課程：日本学研究に必要な日本語能力を伸ばす

3. 留学

現在日本の10大学と交換留学制度があり、2015年秋からバチェラー・マスター合わせて23名が留学する予定